

後で出す知恵 先に出せ

事故や災害が「後の祭り」にならないよう



重大な事故や災害が発生すると、事業場を挙げて徹底した原因究明が行われ、知恵を絞って安全対策が検討されて実施されます。しかし、「後悔先に立たず」「証文の出し遅れ」で「後の祭り」です。

職場での事故や災害のほとんどは、普段のヒヤリ事故や潜在危険が「運悪く」表に現れてきたものです。したがって、これらのヒヤリ事故や潜在危険に対して、その都度原因を究明して対策を実行しておけば、重大な事故や災害は起きなかつたはずですが。

「災害の後で出す知恵 先に出せ」です。

「忙しいからそんなことできない」というかも知れませんが、事故や災害が起きてしまったからの処置や対策の方がはるかに大変です。

事業場や職場の安全衛生の確保については事故や災害発生の前に、皆で知恵を出し合って、KYK（危険予知活動）やRA（リスクアセスメント）を実施・活性化して、事故や災害で「後の祭り」にならないよう、安全衛生の確保と対策の先取りをしていきましょう。